

レファレンス協同データベース事業 令和 5 年度事業報告

目次

1. 活動報告	2
(1) 事務局の活動（時系列）	2
(2) 事務局の活動（その他）	2
(3) 企画協力員による活動.....	3
(4) 参加館による活動.....	4
(5) サポーターによる活動.....	7
2. 統計	11
(1) 参加館数（令和 6 年 3 月末現在）	11
(2) データ登録件数（令和 6 年 3 月末現在）	11
(3) データへのアクセス件数（令和 6 年 3 月末現在）	13
(4) YAU（Yearly Active Users）数の推移	14
(5) 令和 5 年度御礼状.....	14
(6) 令和 5 年度企画協力員賞.....	14

1. 活動報告

(1) 事務局の活動（時系列）

日程	内容
令和5年	
7月26日	専門図書館協議会全国研究集会第2分科会「専門図書館の「レファレンス協同データベース」入門&活用」にて概要を紹介
7月28日	講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：飯田下伊那図書館協会）
9月4日	図書館情報学実習生に対し、業務説明と演習を実施
9月8日	第19回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
9月11日	登録データ総数30万件、X（旧Twitter）6万フォローを記念するページを事業ホームページに掲載
9月15日	企画協力員会議（第1回）
9月20日	第19回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
10月24～25日	第25回図書館総合展にて広報活動（ミニプレゼン、パンフレット配布等）
10月27日	講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：安城市図書館情報館）
令和6年	
1月24日	企画協力員会議（第2回）
2月19日	レファレンス協同データベースのシステムリニューアル
3月1日	第19回レファレンス協同データベース事業フォーラム「レファレンススキルの磨き方—調べものの専門家になるために—」
3月21日	国立国会図書館長からの御礼状送付、企画協力員賞授与

(2) 事務局の活動（その他）

a. 参加館へのサポート

レファレンス協同データベース（以下「レファ協」という。）活用に関する情報、研修等イベントの案内、新規参加館の紹介等を掲載した参加館向けメールマガジン『レファレンス協同データベース事業参加館通信』を月1回（第449号～460号）発行した。また、システムリニューアルの際の連絡事項等を周知するため、必要に応じて参加館通信号外を発行した。

参加館からのレファ協に関する問合せを受け付け、随時回答を行った。新たに参加館となった機関には、初期作業として最初のデータの登録を促した。また、レファ協への参加後に初めて一般公開されたデータに対しては、事務局からのコメント付与、参加館通信やXのレファ協公式アカウント（@crd_tweet）での紹介等を行った。

b. 広報活動

レファ協公式Xで登録データやイベント情報等を発信した。令和5年度の総ツイート数は2,938件、1日当たり平均ツイート数は約12件、令和6年3月末時点のフォロワー数は

62,935 アカウントである。令和 5 年 3 月末から令和 6 年 3 月末にかけて、フォロワー数の伸び率は約 6%となっている。

c. システムリニューアル

令和 6 年 2 月 19 日にシステムをリニューアルした。主な変更点は以下に挙げるとおり。

- ・ 一般利用者が使う画面（トップページ、検索、検索結果一覧、データ詳細、静的ページ）について、スマートフォン表示にも対応した。
- ・ トップページにおいて、レファレンス事例等の各種データの検索画面、一覧画面、新着データ等へのリンクを目立たせるとともに、各ページに簡易検索窓やグローバルナビゲーションエリアを設け、求める情報へスムーズにアクセスできるようにした。
- ・ 国立国会図書館が提供している調べ方案内のデータベース「リサーチ・ナビ」から、記事の本文データを日次で自動取得し、調べ方マニュアル又は特別コレクションとしてレファ協上で閲覧できるようにした。
- ・ データの編集画面にリッチテキストエディタを導入し、見出し等の設定や表の作成を可能としたほか、参考資料の記載順序の入替えを容易に行える機能を実装し、参加館がより簡便に分かりやすいデータを作成できるようにした。
- ・ システム構成の変更や機能の処理方式見直し等を行い、大量のデータのダウンロードや、対象範囲が長期間にわたる統計の出力を可能とした。

d. 刊行物・ウェブサイト等への掲載

- ・ 佐々木良太「レファレンス協同データベースの利活用：第 2 分科会（特集 全国研究集会）」『専門図書館』（特別号）:2023.11, p.18-21.

また、以下の記事で事業が紹介された。

- ・ 「専門図書館の意義紹介 国会図書館関西館でレファ協フォーラム 「外部利用者には有益なサービス」」『京都新聞』 2023.4.27
- ・ 「調べもののスキル磨こう 1 日国立国会図書館オンラインフォーラム」『京都新聞』 2024.2.27
- ・ 「NDL、「レファレンス協同データベース」をリニューアルしたと発表」 2024.3.8
科学技術振興機構 科学技術情報プラットフォーム
<https://jipsti.jst.go.jp/sti_updates/2024/03/14813.html>

(3) 企画協力員による活動

a. レファレンス協同データベース事業企画協力員（令和 6 年 3 月末時点。敬称略、五十音順）

小熊 ますみ	埼玉県立久喜図書館副館長
小田 光宏	青山学院大学コミュニティ人間科学部教授
坂井 華奈子	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 学術情報センター主幹
田子 環	神奈川県立厚木清南高等学校司書

谷本 達哉 羽衣国際大学共通教育開発センター准教授
 中村 由紀子 伊万里市民図書館
 廣田 桂 国立大学法人熊本大学教育研究支援部図書館課

b. 令和5年度の主な活動

レファ協担当者研修会やフォーラム等の企画について助言をいただいたほか、担当者研修会の講師やフォーラムの登壇者としてイベント運営に御協力いただいた。

(4) 参加館による活動

<研修等での紹介>

- ・ 伊丹市立図書館本館「ことば蔵」

令和5年7月1日 ヒトゴトじゃない！不登校シミュレーション		開催形態：対面	
主催	企画者（市民） ※伊丹市立図書館本館「ことば蔵」との共催事業	参加人数	7名
内容	講座内でレファ協事業と、調べ方マニュアルに掲載している不登校の子どもが登場する絵本のブックリストを紹介し、関連書の展示を行った。		

- ・ 神奈川県学校図書館員研究会

令和5年4月11日 令和5年度新規採用学校司書研修 第2回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	13名
内容	講義「整理業務・コンピュータによる蔵書管理」の中で、レファレンスに役立つサイトの一つとしてレファ協を紹介した。		
令和5年5月29日 学校司書等実務研修春期全体研究会		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	190名(会員数)
内容	レファレンス委員会の活動報告の中で、レファ協に関して報告・説明した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度「自館のみ参照」で登録された事例を「一般公開」に変更することを報告した。 ・ 全参加者に基本操作簡易マニュアルなどのレファ協に関する資料を配付した。 ・ 新規参加者向けに LibraryNAVI「レファ協をさらにつかおう」を配付し、レファ協の活用を呼び掛けた。 		
令和5年6月28日 令和5年度新規採用学校司書研修 第4回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	13名
内容	講義「カウンター業務」の中でレファ協を紹介し、「事例を登録して仕事の効率化を」と呼び掛けた。		
令和5年12月11日 学校司書等実務研修冬期全体研究会		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	160名
内容	レファレンス委員会より、活動内容を報告した。また、令和4年11月1日から令和5年11月30日までに「自館のみ参照」で登録された事例の一覧を作成し、これらの事例を令和6年5月の春期全体研究会以降に「一般公開」に変更することを提案した。		

・ 県立長野図書館

令和5年7月5日～7日、7月11日 初任者研修会レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	長野県図書館協会、県立長野図書館 (県域図書館等を対象に行った研修)	参加人数	69名
内容	レファレンス研修で、所属自治体について書かれたレファ協事例を検索し、書かれている内容を調べ、グループワークで他の参加者と情報共有した。初任者を対象としているため、レファ協の存在を認識し、利用方法を把握することを目的とした。		
これからの図書館研究会（資料活用・レファレンスグループ）		開催形態：オンライン（年4回）	
主催	長野県図書館協会、県立長野図書館	参加人数	23名
内容	レファレンス事例のまとめ方について、レファ協の方式を基に、参加者が各自の事例を記録する試みを行った回があった。少人数で館を動かしている町村職員が、忙しい中でレファレンス記録をどう残したらいいのか、ノウハウが蓄積されない人事事情の中でのつぶやきから取り組んだもの。		
レファレンス研究会		開催形態：対面（毎週木曜日）	
主催	県立長野図書館（館内研修）	参加人数	15～16名
内容	他館のレファ協事例を基に、自館の資料のトレースや、別アプローチを試みたものを参加者が各自発表し、全員で有効性等を検討した。（全員終了するまでに、4か月程度掛かった。）		

・ 国立国会図書館

令和5年4月 利用者サービス部門新規配属職員研修		開催形態；オンライン	
主催	国立国会図書館利用者サービス部	参加人数	42名
内容	プログラムの一部で、レファ協について説明した。		

・ 埼玉県立久喜図書館

令和6年3月8日 レファレンスサービス基本のきほん編 令和5年度 レファレンスサービス研修		開催形態：対面、オンライン併用	
主催	埼玉県立久喜図書館 情報・地域協力担当	参加人数	14名
内容	令和4年度以降の新規採用職員及び埼玉県立図書館勤務経験が初めての職員を対象とした。レファレンスインタビューやレファ協事例を基に回答の仕方を学んだ。埼玉県立図書館（熊谷、久喜）の館内新人研修、職員のスキルアップを目的に行った研修であり、登録事例を示しながら経過や回答の書き方を紹介した。		

・ 東京都江戸東京博物館 図書室

令和5年4月 新任者研修		開催形態：対面	
主催	東京都江戸東京博物館 図書室	参加人数	15名
内容	図書室の概要や利用方法と併せて、博物館活動におけるレファ協活用法を紹介した。		

・ 鳥取県立図書館

令和5年5月11日 令和5年度第1回レファレンステーマ勉強会「レファレンス協同データベース」		開催形態：対面	
主催	鳥取県立図書館情報相談課相談担当	参加人数	15名程度
内容	館内の職員向け研修会で、資料相談時のレファ協活用事例の紹介、レファ協への事例登録の呼び掛けを行った。		

・ 藤沢市総合市民図書館

令和5年6月14日 新人研修（調査研究室研修）		開催形態：対面	
主催	藤沢市総合市民図書館参考調査担当	参加人数	8名
内容	参考図書・地域資料の案内、レファレンスツールの説明等を行った。 検索ツールを紹介する中で、レファ協の検索方法や活用の仕方についても説明した。		
令和5年9月5日、9月7日 大学生司書実習（調査研究室研修）		開催形態：対面	
主催	藤沢市総合市民図書館参考調査担当	参加人数	3名
内容	参考図書・地域資料の案内、レファレンスツールの説明、レファレンス演習問題を行った。 検索ツールを紹介する中で、レファ協の検索方法や活用の仕方についても説明した。		

<刊行物等への掲載>

・ 伊丹市立図書館本館「ことば蔵」

「レファレンスサービスって知っていますか？」『Felice』17(2)(通巻194):2023.6（発行：住友生命保険相互会社 企画・制作・デザイン：株式会社アーク）にレファ協のURLと、伊丹市立図書館本館「ことば蔵」のレファレンス事例が掲載された。

「糸島市立図書館としょかん通信 Vol.54」『糸島市広報紙 ITOSHIMA』(316):2024.2, p.21. に、伊丹市立図書館本館「ことば蔵」のレファレンス事例が掲載された。

<<https://itoshima.libweb.jp/tosyokan/tuusin/document/tuusin20240201.pdf>>

・ 小野市立図書館

「国会図書館 質問受け回答、やりとり閲覧22万件 小野市立図書館に礼状 8年連続データベース事業で」『神戸新聞』2023.4.22

・ 神奈川県学校図書館員研究会

ホームページの「レファレンス事例ピックアップ」のコーナーを隔月で更新した。

<<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kastanet/>>

・ 蒲郡市立図書館

「閲覧数伸ばし続ける 蒲郡図書館が3年連続トリプル評価／国会図書館レファ協／

アクセス1位「ノーノーと完全試合の違い」『東日新聞』2023.4.18

「11年連続で礼状受ける 国会図書館長から 3年連続トリプル評価も」『東愛知新聞』2023.4.21

(5) サポーターによる活動

レファ協事業サポーターは登録データへのコメント付与や当事業の広報等の活動を行っている。令和6年3月末時点で64名が登録されている。(以下、敬称略)

<研修等での紹介>

- ・ 上田 茜

令和5年5月23日 2023年度第1回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	35名
内容	図書館を使った調べる学習コンクール関連講座「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」においてレジュメを配布し、レファ協で一般公開しているブックリストを紹介した。		
令和5年6月7日 2023年度第2回学校司書研修会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	26名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館を使った調べる学習コンクール関連講座「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」においてレジュメを配布し、レファ協で一般公開しているブックリストを紹介した。 ・ 新刊紹介で、関西弁の児童文学『ペンタとニック』（風野潮／作，吉田尚令／絵 文研出版 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の関西弁に関する資料のブックリストとレファ協事業について紹介した。 		
令和5年6月27日 2023年度第2回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	29名
内容	新刊紹介で、関西弁の児童文学『ペンタとニック』（風野潮／作，吉田尚令／絵 文研出版 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の関西弁に関する資料のブックリストとレファ協事業について紹介した。		
令和5年6月29日 レファレンス協同データベース登録研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市立図書館本館「ことば蔵」レファレンス協同データベース担当	参加人数	1名
内容	レファ協のデータ登録について説明を行った。		
令和5年7月22日～8月26日 2023年度初任者研修		開催形態：書面	
主催	兵庫県教育委員会	参加人数	新任教員 15名
内容	新任教員を対象とした初任者研修を図書館で実施し、レファ協事業・事例の紹介が載っているレジュメを配布した。		

令和5年9月6日 2023年度第4回学校司書研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	29名
内容	新刊紹介で、関西弁の絵本『わたしのおにいちゃん!』（くすのき しげのり／作，大島 妙子／絵 光村教育図書 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の関西弁に関する資料のブックリスト、レファ協事業について紹介した。		
令和5年9月14日 2023年度第4回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	29名
内容	新刊紹介で、関西弁の絵本『わたしのおにいちゃん!』（くすのき しげのり／作，大島 妙子／絵 光村教育図書 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の関西弁に関する資料のブックリスト、レファ協事業について紹介した。		
令和5年11月1日 2023年度第6回学校司書研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	30名
内容	新刊紹介で、祖母の死を描いた絵本『ぼく、いいたいことがあるの』（ジャン=フランソワ・セネシャル／文，岡田 千晶／絵，小川 仁央／やく 評論社 2023）、日英併記絵本の『あめ』（二宮 由紀子／作，高畠 純／絵 理論社 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の「大切な人やペットなどの死を描いた絵本」、「日本語と英語で書かれている絵本」のブックリスト、レファ協事業について紹介した。		
令和5年11月14日 2023年度第5回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育室学校指導課	参加人数	32名
内容	新刊紹介で、祖母の死を描いた絵本『ぼく、いいたいことがあるの』（ジャン=フランソワ・セネシャル／文，岡田 千晶／絵，小川 仁央／やく 評論社 2023）、日英併記絵本の『あめ』（二宮 由紀子／作，高畠 純／絵 理論社 2023年）を取り上げ、調べ方マニュアル掲載の「大切な人やペットなどの死を描いた絵本」、「日本語と英語で書かれている絵本」のブックリスト、レファ協事業について紹介した。		

・ 北邑 希世子

令和5年6月23日 京都レファレンスマップ 登録・勉強会		開催形態：対面（一部オンライン）	
主催	ししょまろはん	参加人数	7名
内容	レファ協のデータを活用した「ししょまろはん」のオープンデータ「図書館員が調べた京都のギモン～京都レファレンスマップ～」の勉強会において、レファ協の検索をし、該当する事例の位置情報等を付与し、「ししょまろはん」データとして登録した。レファ協についても簡単に説明を行った。		

・ 寺尾 隆

令和5年6月17日 クイックレファレンス研修		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	14名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和5年8月5日 クイックレファレンス研修		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	30名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和5年9月6日 クイックレファレンス研修		開催形態：対面	
主催	関西学院大学 神戸三田キャンパス図書メディア館	参加人数	10名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和5年9月15日 クイックレファレンス研修		開催形態：対面	
主催	京都橘大学図書館	参加人数	7名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和5年10月21日 企業情報データベース演習		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	8名
内容	講義、東洋経済（DCL）・日経テレコン・eolの演習でレファ協研修環境を使用した。		
令和5年11月2日 リーガル・リサーチ研修		開催形態：対面	
主催	近畿大学中央図書館	参加人数	24名
内容	講義、D1-Law.comの演習でレファ協研修環境を使用した。		
令和5年11月18日 統計オープンデータ調査演習		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	13名
内容	講義、検索演習でレファ協研修環境を使用した。		
令和5年12月2日 レファレンス遠隔演習		開催形態：オンライン	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	5名
内容	事前課題調査、プレゼン・討議でレファ協研修環境を使用した。		
令和6年1月20日 法情報データベース演習		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	26名
内容	講義、D1-Law.com演習でレファ協研修環境を使用した。		
令和6年2月21日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス大学図書館	参加人数	24名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和6年2月22日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス大学図書館	参加人数	8名
内容	レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		
令和6年3月27日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	大阪公立大学杉本図書館	参加人数	12名
内容	レファレンス過去事例の検討、レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		

令和6年3月29日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	大阪公立大学中百舌鳥図書館	参加人数	13名
内容	レファレンス過去事例の検討、レファレンスインタビュー講義、ロールプレイ演習を行った（研修環境を使用）。		

<授業での紹介>

- ・ 徳田 恵里

近畿大学「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ（司書課程）」

Ⅰではレファ協を紹介し、Ⅱでは受講者全員が研修用環境で「レファレンス事例」を一つ完成させ、回答・回答プロセス・自身の考察をプレゼンすることを最終課題とした。

<刊行物等への掲載>

- ・ 上田 茜

2023年5月24日 FM放送（ハッピーエフエムいたみ）、YouTube配信

レファ協事業、レファ協御礼状授与、レファレンスサービス、レファ協公開事例の書籍化『図書館にまいこんだこどもの大質問』（青春出版社）について紹介した。

2. 統計

(1) 参加館数（令和6年3月末現在）

令和5年度も参加館数は着実に増加している。

館種	令和3年度 まで	令和4年度 まで	令和5年度 合計	令和5年度 増	令和5年度 減
公共図書館	514	535	550	15	0
都道府県	53	53	53	0	0
政令指定都市	25	25	25	0	0
市町村	436	457	472	15	0
大学図書館	206	208	209	1	0
国立大学	51	51	51	0	0
公立大学	20	21	22	1	0
私立大学	134	135	135	0	0
高等専門学校	1	1	1	0	0
専門図書館	65	68	70	3	1
学校図書館	73	73	73	0	0
アーカイブズ※	10	10	11	1	0
国立国会図書館※	13	13	12	0	1
合計	881	907	925	20	2

※ 「アーカイブズ」は、平成27年7月に館種区分「その他」から変更。

※ 国立国会図書館には支部図書館を含む。

<令和5年度新規参加館>（参加承認順）

公共図書館

和歌山市民図書館、日野町立図書館、島本町立図書館、松江市立中央図書館、
はつかいち市民図書館、真室川町中央公民館図書室、淡路市立図書館、牟岐町立図書館、
知多市立中央図書館、杉並区立中央図書館、石川町立図書館、岩沼市民図書館、
宮古島市立図書館、綾瀬市立図書館、久慈市立図書館

大学図書館

静岡文化芸術大学図書館・情報センター

専門図書館

航空図書館、公益財団法人日本税務研究センター図書室、公益財団法人福岡アジア都市研
究所 都市政策資料室

アーカイブズ

藤沢市文書館

(2) データ登録件数（令和6年3月末現在）

令和5年度末のデータ登録件数（総登録件数）は、対前年度比で約106%と増加した。年
度ごとの新規データ登録件数は、対前年度比で約100%であった。

a. 館種別・公開レベル別データ登録件数

	公共 図書館	大学 図書館	専門 図書館	学校 図書館	アーカ イブズ	国立国会 図書館	合計
レファレンス事例	213,493	28,302	23,644	6,528	3,109	26,012	301,088
一般公開	110,237	13,479	6,849	3,134	867	25,076	159,642
参加館公開	11,455	2,972	493	191	268	34	15,413
自館参照	91,801	11,851	16,302	3,203	1,974	902	126,033
調べ方マニュアル	9,674	730	237	905	35	1,865	13,446
一般公開	2,548	527	166	661	6	1,738	5,646
参加館公開	5,944	38	2	11	2	3	6,000
自館のみ参照	1,182	165	69	233	27	124	1,800
特別コレクション	462	141	669	14	5	701	1,992
一般公開	275	52	597	13	0	688	1,625
参加館公開	69	7	0	0	4	2	82
自館のみ参照	118	82	72	1	1	11	285
参加館プロフィール	550	209	70	73	11	12	925
一般公開	550	209	70	73	11	12	925
参加館公開	0	0	0	0	0	0	0
自館のみ参照	0	0	0	0	0	0	0
合計	224,179	29,382	24,620	7,520	3,160	28,590	317,451
一般公開	113,610	14,267	7,682	3,881	884	27,514	167,838
参加館公開	17,468	3,017	495	202	274	39	21,495
自館のみ参照	93,101	12,098	16,443	3,437	2,002	1,037	128,118

b. 年度ごとのデータ登録件数

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別コレクシ ョン	参加館プロフ ファイル	合計	総登録件数
平成16年度	13,620	167	158	283	14,228	14,228
平成17年度	6,557	190	73	107	6,927	21,155
平成18年度	4,087	183	5	52	4,327	25,482
平成19年度	4,841	197	21	10	5,069	30,551
平成20年度	5,682	5,928	13	27	11,650	42,201
平成21年度	8,759	223	10	32	9,024	51,225
平成22年度	13,646	307	28	29	14,010	65,235
平成23年度	17,956	543	54	20	18,573	83,808
平成24年度	23,079	361	124	23	23,587	107,395
平成25年度	20,830	688	△84	34	21,468	128,863
平成26年度	15,937	331	14	39	16,321	145,184
平成27年度	19,133	1,184	43	41	20,401	165,585
平成28年度	21,845	△16	20	44	21,893	187,478
平成29年度	18,084	320	48	28	18,480	205,958

平成30年度	18,436	195	19	36	18,686	224,644
令和元年度	23,715	397	350	23	24,485	249,129
令和2年度	15,315	208	277	27	15,827	264,956
令和3年度	17,734	145	327	26	18,232	283,188
令和4年度	16,213	813	63	26	17,115	300,303
令和5年度	15,619	1,082	429	18	17,148	317,451

※ △は前年度に対して減少したことを示す。

(3) データへのアクセス件数（令和6年3月末現在）

令和5年度のアクセス件数の合計は、対前年度比で約103%と増加した。

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別 コレクション	参加館 プロフィール	合計
平成16年度	23,822	1,739	1,571	2,384	29,516
平成17年度	135,633	6,698	2,701	6,729	151,761
平成18年度	372,923	27,322	2,342	11,852	414,439
平成19年度	934,783	49,622	3,899	18,416	1,006,720
平成20年度	1,506,785	65,456	5,929	22,252	1,600,422
平成21年度	2,423,254	99,378	5,654	27,358	2,555,644
平成22年度	6,407,952	209,039	30,826	69,851	6,717,668
平成23年度	6,944,084	280,387	41,394	81,423	7,347,288
平成24年度	7,674,019	252,109	49,852	247,650	8,223,630
平成25年度	16,530,577	480,292	57,026	206,606	17,274,501
平成26年度	23,224,613	585,411	53,553	221,590	24,085,167
平成27年度	37,004,963	869,274	71,193	292,745	38,238,175
平成28年度	40,015,309	1,037,071	76,624	304,633	41,433,637
平成29年度	51,904,330	821,923	68,706	301,160	53,096,119
平成30年度	35,467,747	610,716	48,423	326,648	36,453,534
令和元年度	42,634,969	710,865	80,514	701,272	44,127,620
令和2年度	50,338,506	823,358	109,303	708,052	51,979,219
令和3年度	55,064,078	731,223	152,777	544,063	56,492,141
令和4年度	36,744,879	488,245	71,001	298,734	37,602,859
令和5年度	37,341,505	879,935	111,047	333,180	38,665,667

※ データの詳細表示画面の表示回数。レファ協の統計機能並びに令和3年度までの事業報告では「被参照数」と表記している。

※ レファレンス事例データ、調べ方マニュアルデータ、特別コレクションデータ及び参加館プロフィールデータにつき、参加館用システム・一般公開用システム双方へのアクセス件数を合計した（一般公開用システムの統計は、本データベースの一般公開を開始した平成17年12月15日から採取している。）。

※ システムへの負荷を軽減するため、平成29年6月末以降、クローラ等による大量アクセスを抑制する対応を随時行っており、アクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセス件数は計上されていない。ただし、令和6年2月19日システムリニューアル以降はアクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセス件数も計上されている。

(4) YAU (Yearly Active Users) 数の推移

YAU とは、公開レベルを問わず、1 年間で 1 件以上、レファ協にレファレンス事例、調べ方マニュアル又は特別コレクションを登録した参加館の総数である。参加館総数に占める YAU の割合は 30% 台後半で推移している。

	YAU	参加館総数	YAU 比率
平成 27 年度	250	697	35.9%
平成 28 年度	272	741	36.7%
平成 29 年度	287	769	37.3%
平成 30 年度	294	805	36.5%
令和元年度	300	828	36.2%
令和 2 年度	304	855	35.6%
令和 3 年度	329	881	37.3%
令和 4 年度	338	907	37.3%
令和 5 年度	325	925	35.1%

(5) 令和 5 年度御礼状

令和 5 年度は 84 館に御礼状を送付した。対象館はレファ協ウェブサイト内「令和 5 年度国立国会図書館長からの御礼状送付>対象館一覧¹」を参照。

(6) 令和 5 年度企画協力員賞

様々な観点からレファ協に貢献している参加館へ企画協力員賞を授与している。企画協力員で議論を行い、令和 5 年度は以下の 5 館を選定した。

- ・ 赤穂市立図書館
(選定理由) 参加館となって日が浅いにもかかわらず、地域に関するレファレンス事例を中心に、遡及事例も含めて登録し、特に 2023 年に活発に公開した。
- ・ 足立区立中央図書館
(選定理由) 地域のレファレンス事例や調べ方マニュアルを中心に、積極的にデータ登録、公開を行った。
- ・ 苫小牧市立中央図書館
(選定理由) 地域のレファレンス事例を中心に、継続的にデータを登録、公開した。
- ・ 山梨県立文学館 閲覧室
(選定理由) 参加館となって日が浅いにもかかわらず、専門の文学分野のレファレンス事例を、遡及事例も含めて登録し、積極的に公開した。
- ・ 行橋市図書館
(選定理由) 継続してデータの登録を行い、多数の被参照を集めるデータを登録した。

¹ <https://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks/r5.html#list>